

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(6月1日～6月7日)

2021年6月10日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領が、ロシアとの協力の諸問題に関する会議でクリミアへの航空便開設の意向を表明。(6/1)
- 欧州連合理事会がベラルーシの全航空会社に対して EU 加盟国の上空通過と EU 域内の空港へのアクセスを禁止することを決定。(6/4)
- ゴロフチェンコ首相、欧米からの経済制裁に対する報復制裁の導入、及びライアンエア機の事案に関する損害賠償を求める意向を表明。(6/5)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ロシアとの協力の諸問題に関する会議に出席。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下のとおり。
「ウクライナは我が国に対して空路を閉じた。クリミアには我が国の保養所がある。(ウクライナとの)関係を先鋭化させないために、我々はウクライナ領域を通過して(ロシアによって占領されているとウクライナが主張しているクリミアに入域して)いる。列車で、自動車で、飛行機で。今、ウクライナは空路を閉じた。私はプーチンに『我々がどうやってクリミアに入域するか考えてくれ』と言った。」
「(関係当局にクリミア発着便の検討を指示した旨述べ、)問題は生じないだろう。(ウクライナの)空路が閉じられたが、より開放的な国があるし、その国を我々は通じていつでもクリミアに行ける。」
「(5/28、29 のソチでのプーチン露大統領との首脳会談では)ロシア軍の(ベラルーシへの)常駐や基地設置については一切議論しなかった。それは我々には必要ない。ロシアはベラルーシのすぐ隣に位置しており、NATO 側からの疑わしい軍事的活発化があれば、同盟部隊が一昼夜の間にベラルーシに展開される。」
「ロシア産原油のベラルーシへの供給について問題は生じない。我が国は 2,200 万トンの原油を精製できる。ロシア市場とその他の国の市場への石油製品の供給も問題はない。」
「(ソチでの首脳会談では、)2022 年 1 月 1 日から導入されるロシアの税操作によって生じるベラルーシ石

油精製工場の損失を最小化することにつき、原則合意した。」

「天然ガスの供給についても問題ない。この問題は決着していないが、プーチン大統領は、この状況下でベラルーシをガス価格の面でどのように支援するかを検討すると約束してくれた。」

(6/1 大統領公式サイト)

●国家安全保障会議の役割強化に関する同会議決定に署名。

同決定は 6 月 4 日にルカシェンコ大統領によって署名され、翌 5 日に公開された。

(6/5 ベラパン通信)

【外交】

●米国による対ベラルーシ経済制裁の再発動に関するグラス外務省報道官の発言要旨

- ・(6 月 3 日から同制裁が発動されていることに触れ、)これは国際法に反し、主権国家に圧力を加えるために呼びかけられた違法な措置である。当該措置は、制裁対象主体の従業員層、一般のベラルーシ国民に損害をもたらすものとなる。
- ・米国の同僚たちの二面性に改めて注意を向けるため、米国が 1994 年に署名したブダペスト覚書を引用する。「米国はベラルーシ共和国に対して、欧州安全保障協力会議(CSCE)の最終文書の諸原則に則って、ベラルーシ共和国の権利、同国固有の主権…の行

使を自国の利益に従わせるための経済的強制を控えることを確認する。」

・主権国家として、今回の非友好的攻撃は無視できない。よって、本日(3日)、駐ベラルーシ米国臨時代理大使は外務省に召致され、対抗措置について通告された。措置の内容は、米国外交使節の外交官及び官房・役務系職員の人数削減、査証手続きの厳格化、ベラルーシにおける米国の専門人材の一時的職務制限である。

・従来同様、我が国はエスカレーションを望んでおらず、権利の平等及び相互尊重の原則に基づいて米側とコンタクトを続ける用意がある。

(6/3 ベラルーシ外務省ウェブサイト)

●ロシア対外諜報庁(SVR)とベラルーシ国家保安委員会(KGB)が西側諸国の破壊的活動に対して共同対処することで合意。

ナルィシキン SVR 長官とチェルチェリ KGB 長官がヴィテプスクでの会談後に表明。

(6/3 TUT.BY テレグラム・チャンネル)

●欧州連合理事会がベラルーシの全航空会社に対して EU 加盟国の上空通過と EU 域内の空港へのアクセスを禁止することを決定。

(6/4 ベラパン通信)

【内政】

●ベラルーシ保健省医薬品委員会が、ロシア製ワクチン「スプートニク・ライト」を承認。

国家登録の有効期間は1年間。「スプートニク・ライト」ワクチンは、新型コロナウイルスに対する免疫を作る1回接種のワクチン。当ワクチンの効果が最も高いのは、すでに感染を経て COVID-19 に対する免疫を獲得した人が接種した場合。

(6/3 保健省公式テレグラム)

●ゴロフチェンコ首相、欧米からの経済制裁に対する報復制裁の導入、及びライアンエアー機の事案に関する損害賠償を求める意向を表明。

報復制裁は、ウクライナを含む欧州諸国の資本参加を得ている大企業を対象として、商品及び技術の利用を拒否する内容。

ライアンエアー機の強制着陸事案に関する損害賠償は裁判を通じて求めると表明。

(6/5 ベラパン通信)

【経済】

●ロシアが対ベラルーシ融資 15 億ドルの内の第 2 トランシェとして 5 億ドルを送金。

2020 年 12 月 21 に締結された両国間の国家融資に関する合意に基づき、6 月 2 日に 5 億ドルがベラルーシ財務省の口座に入金された。第 2 トランシェの提供は、前週のソチにおけるルカシエンコ大統領とプーチン露大統領との会談で議題に上っていた。

ベラルーシは当該融資の返済を 2026 年 5 月 15 日に開始しなければならない。

(6/2 ベラパン通信)

●ニュージーランドの鉱物質肥料製造大手ラーベンスダウン社が、ベラルーシ・カリ社の製品購入を停止。

ニュージーランドの鉱物質肥料の消費量の 50%を供給しているラーベンスダウン社は、ベラルーシ・カリ社からの塩化カリウム購入を停止し、カナダ製品を購入することとした。ラーベンスダウン社の決定は、昨年の大統領選挙後にベラルーシ・カリ社の従業員の一部がストライキを起こした後に解雇されたことや、ベラルーシ国内で労働者のストライキ権に関する法規が廃止されたことなどを考慮したもの。

(6/4 ベラパン通信)

●ベラルーシの外貨準備高、5月に4億8520万USD(6.7%)増加。

6月1日時点の外貨準備高は77億6310万USDとなった。

(6/7 ベラパン通信)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表、ビリニユスで米上院

議員と会談。

ジーン・シャヒーン上院議員、クリス・マーフィー上院議員、ロブ・ポートマン上院議員がチハノフスカヤ氏と会談。議員らは、チハノフスカヤ氏が6月にワシントンを訪問して米上院外交委員会で発言するよう招待。さらに、G7サミットへのチハノフスカヤ氏の参加の可能性も議論された。

(6/1 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ民主勢力代表、クルツ・オーストリア首相とオンライン会談。

チハノフスカヤ氏はベラルーシ国内の政治犯に対する圧力と刑務所での拷問について語り、「これ以上待っている時間はない。オーストリアに対して、(EUの)第4次制裁への支持と第5次制裁の検討を要請する。また、ベラルーシの市民社会への支援もそれに劣らず重要である」旨述べた。

(6/1 ベラパン通信)

●6月2日、チハノフスカヤ民主勢力代表がラーブ英外相と電話会談。

会談後、チハノフスカヤ氏は自身のツイッターで、要旨以下のとおり発信。
「ベラルーシの人々に対する英国の支持についてラーブ外相に感謝している。ライアンエアーの事件の調査は必要である。自分(チハノフスカヤ氏)は、英国に対して、我々が(ルカシェンコ体制による)暴力を停止させ、プロタセヴィチ氏、ラティパウ氏、サペガ氏を含む政治囚を釈放するのを支援するよう、ベラルーシの問題をG7において提起することを要請した。」

ラーブ英外相は自身のツイッターで要旨以下のとおり発信。
「彼女の勇気に敬意を表す。英国は、ベラルーシの人々と共にあり、そして彼らと与えられるべき民主的な未来を支持している。」

●ラトウシュコ国家危機対策局長、ポーランド検察庁に、ベラルーシ民主勢力代表者に対する身体的制裁及び国際テロ行為の脅威に関する文書を提出。

(6/2 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ民主勢力代表、ワルシャワでドウダ・ポーランド大統領と会談。

同会談にはチハノフスカヤ氏の国際問題代表を務めるコヴァレフスキー氏及びラトウシュコ国家危機対策局長も同席。双方は、ライアンエアー機の強制着陸後に拘束されたロマン・プロタセヴィチ氏の両親への支援、ルカシェンコ氏に対する経済的・政治的圧力の強化などについて議論。

(6/4 ベラパン通信)

(了)